

今月の 手づくりメニュー

保育園で子どもたちが食べている給食やおやつので作り方の一部をご紹介します。ご家庭でも簡単にできます。ぜひ、お子さんと一緒に作ってみてください。

◆たけのことふきの煮物

材料（1人分） たけのこ水煮20g、ふき20g、生揚げ30g、鶏もも20g、人参15g、干しいたけ1g、醤油4g、砂糖2g、だし汁適量

作り方

- ①ふきは鍋に入る長さに切り、塩をふり、まな板の上で転がす（板ずり）。たつぷりの熱湯でゆでて水に取り、水の中ので皮をむく。
 - ②材料は全て食べやすい大きさに切る。
 - ③鍋にだし汁を入れ、たけのこ、人参、しいたけを入れて10分程度煮る。
 - ④調味料を加えてから、鶏肉を加えてさらに煮る。
 - ⑤生揚げ、ふきを加えてさっと煮て味を含ませる。
- 栄養士から一言** 春をつげるふきのとうは、ふきの花です。愛知県は全国一のふきの生産地です。地元でつくられたら、さきで春を味わいましょう。

コラム

たかほま子ども 市民憲章

市では、10月26日（金）・27日（土）に「地方自治と子ども施策」全国自治体シンポジウムを開催します。

このシンポジウムは、国連子どもの権利条約の実現を図ることを目的にした、早稲田大学喜多明人氏をはじめとする学識経験者および行政職員を中心に平成14年兵庫県川西市で開催されて以来、毎年開催されています。本市では、平成15年11月に「たかほま子ども市民憲章」を制定し、この普及啓発を行っています。

このシンポジウムに関係する先生たちに子ども市民憲章に関するメッセージをお願いし連載しています。

皆さんも一緒に、子どものことを考えてみませんか。



子ども施策として大切にしたいこと

内田塔子（東洋大学）

私は全国各地の自治体で、子どもの実態調査に関わっています。調査の内容は、いまを生きる子どもたちが、毎日、学校や地域で、安心で充実した生活を送れているか、疲れやストレスを感じるか、あるいは、身体や心を傷つけられる経験をしたら誰に相談しているか、といったようなことです。

調査結果をみると、各地で共通して見られる興味深い傾向があります。その一つが「子どもとおとなの認識のズレ」です。

調査では、子どもだけでなく、子どもをとりまくおとなにも尋ねてみました。子ども調査で「ホッとでき安心していられるところはどこですか」と尋ね、おとな調査では「あなたからみて子どもがホッとできて安心していられる場所はどこだと思いますか」というように、子どもの実態と、おとなが認識している（つもり）の、子どもの実態とを比較できるように工夫しました。

その結果、いくつもの点で、子どもの実態とおとなの子ども認識とが食い違っているところが見られました。例えば、「ホッとでき安心していられる居場所」として「学校の教室」をあげる回答は、子どもの中では比較的高い割合を示すのですが、おとなの回答は非常に低いです。また、「疲れること、不安に思うこと」として「友だちや先輩との関係」をあげる回答は、おとなでは約半数あるのですが、子どもはおとなの半分ほどの割合です。

なぜこのようなズレが生まれるのかについては、もっと詳しく調べていかなければなりません。例えば、昨今の相次ぐいじめ自殺と関連報道に、おとなが少なからず影響されながら子どもや学校に対する認識をつくりあげている、ということも考えられそうです。

実際の子どもの回答を見ると、学校で疲れることや不安に思うことがある場合もあるが、休み時間に友だちと遊びたい、遊んだり話したりすることが楽しい場合もある、そんな多面的な子どもたちの姿が浮かび上がってきます。このような子どもたちの多面性を、おとなはステレオ

タイプにとらわれることなく柔軟に理解することが、まず求められているように思います。

◆略歴

東洋大学ライフデザイン学部専任講師。子どもの権利条約総合研究所事務局長。飯能市次世代育成支援行動計画推進委員会委員など。著書に『子どもにやさしいまちづくり』（編著、日本評論社、2004年）、『現代学校改革と子どもの参加の権利』（共著、学文社、2004年）など。

